

## 健康診断における内科検診の意義

監修：有明こどもクリニック 理事長 小暮 裕之 先生

### 学校保健における健康診断

日本の学校で、健康診断の前身となる身体検査が行われるようになったのは明治時代のことです。当時、学生健康増進を目的とする体操が学校教育に取り入れられ、その効果を判定するために、身長・体重・胸囲・握力・肺活量などの測定が行われました。その後、時代とともにその目的・位置づけも移り変わり、現在では健康診断は「子どもたちの健康管理」における重要な柱となっています。同時に、学校行事の一つでもある定期健康診断には教育的側面もあります。子どもたちが自分の健康状態について理解し、日頃の生活習慣を改めて見直す機会として重要な意義を持つといえるでしょう。

現在学校で行われる健康診断は『学校保健安全法』の規定に基づいて実施されています。健康診断の時期や検査項目および技術的基準については、文部科学省令『学校保健安全法施行規則』により定められています。小学校では、毎学年定期的に6月30日までにを行うものとされており、省令に定められた検査項目は以下の通りです。

#### ■ 学校保健安全法施行規則(第6条)

- (1) 身長、体重、座高
- (2) 栄養状態
- (3) 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無
- (4) 視力及び聴力
- (5) 眼の疾病及び異常の有無
- (6) 耳鼻咽喉疾患及び皮膚疾患の有無
- (7) 歯及び口腔の疾病及び異常の有無
- (8) 結核の有無
- (9) 心臓の疾病及び異常の有無

- (10) 尿
- (11) 寄生虫卵の有無
- (12) その他の疾病及び異常の有無

### 内科検診でわかること

内科検診の主な目的は、各児童の発育・発達状態や疾病異常などの健康状態を定期的に把握して健康保持・増進を図ることです。さらに、集団生活において感染症の発生や拡大を防ぐという重要な役割も担っています。以下に、内科検診で行う主な検査項目および各検査で発見される疾病異常の例を挙げます。

#### ■ 脊柱および胸郭の疾病および異常の有無

ここでは主に側弯症や骨・関節の異常の有無を調べます。背骨が横に曲がる側弯症は、とくに小学校高学年から多く見られるようになります。重度になると、骨格全体の変形、慢性的な腰痛や背中の痛み、肺や心臓の機能障害を引き起こすこともあるため早期に発見・治療することが必要です。定期健康診断の結果、異常が疑われた場合は、レントゲン撮影などの精密検査を受けます。

胸郭(胸の骨)の変形としては、胸の中央部分がへこむ漏斗胸、前方に突出している鳩胸などがあります。胸郭の変形については、美容面を気にする以外はあまり問題にはなりません。ひどくなると胸の痛みや圧迫感、疲労感などの症状が出ることもあるといわれています。

#### ■ 皮膚疾患の有無

視診により、感染性皮膚疾患、湿疹、アレルギー疾患の有無について調べます。とくに、感染性皮膚疾患は皮膚の接触や水を介して感染す

る場合もあるため、プールが始まる前の時期に行われるこの検診は感染拡大を防ぐためにも重要です。感染性皮膚疾患のうち、児童によく見られる症状としては、とびひ(伝染性膿痂疹)、水イボなどがあります。

#### ■ 心臓の疾病および異常の有無

心臓病の早期発見と、心臓病を持つ児童に対して適切な日常生活の指導を行うことが目的です。検診では、胸に聴診器をあてて心音を聴きます。重度の心臓病は命にかかわることもあるので慎重な診断が必要です。かすかな雑音を聴き分けているので、周囲で話し声や物音を立てないように注意しましょう。

検診で異常が疑われる児童は、精密検診の対象となります。二次検査では、診察、血圧測定、心電図、心音図、必要場合は胸部レントゲン、運動負荷心電図、超音波断層(エコー)検査が行われます。

#### ■ 結核の有無

結核は日本ではまだまだ多い感染症であり、近年は若年層にも広がりを見せています。

学校の健康診断では、従来のツベルクリン反応およびその結果により行われるBCG接種や精密検査に代わって、2003年(平成15年)4月からは問診票、学校医の診察に基づき精密検査対象者の選別を行っています。

#### ■ 栄養状態

栄養状態は児童の健康状態や家庭での生活の評価につながります。内科検診では視診により、皮膚の色沢、皮下脂肪の充実、筋骨の発達、貧血の有無、栄養不良または肥満傾向など異常の有無を診察します。思春期肥満の70～80%は成人肥満へ移行し、糖尿病、高血圧、動脈硬化といった生活習慣病の発症リスクを上昇させるといわれています。子どもの肥満は保護者の生活習慣が大きく影響しているため、肥満が認められた場合は家庭における対策が不可欠です。

肥満ややせの傾向が見られる児童については、身体測定の結果をもとに事前に「肥満度」を算出しておくことで検診の際に役立ちます。肥満度が20%以上で肥満傾向とされ、さらに肥満度30%以上にあてはまる児童は生活習慣病予

防健診の対象となります。

肥満度は、次の式で計算します。  
(実測体重－標準体重)÷標準体重×100%

#### ■ その他の疾病および異常の有無

内科検診では、背中に聴診器をあてて呼吸音を確認します。これは喘息や結核など呼吸器に異常がないかを診断するものです。

そのほか、内科検診ではからだ全体の成長や発達のようすも確認します。小学生の成長は、乳幼児のように栄養摂取によるものだけではなくホルモンの分泌と密接にかかわりがあります。思春期には早い段階で、急激な身長の伸びや性的身体変化が見られる場合はホルモン分泌の異常などが疑われ、身長の伸びや2次性徴が早く止まってしまうなどの影響が出てくることもあるため注意が必要です。

### 内科検診の実施に関する注意点

近年、プライバシー保護などさまざまな観点から内科検診のあり方も変化してきました。しかし、学校における健康診断は、学校生活を送るために支障がないかどうか児童の健康状態を把握するという役割と、健康教育に役立てるという大きく二つの役割があります。納得した上で受診できるように、児童と保護者がその目的や必要性を正しく理解することが理想的です。

また、健康診断の際、校医は短い時間の中で大勢の生徒を診察します。とくに内科検診では心音や呼吸音の聴診も行います。正確な診察を行うためにも、検診会場では自分の順番が来るまで静かに待ち、順番が来たらすみやかに行動するよう指導しましょう。そして、もし検診で異常が疑われた場合は、医療機関をかならず受診するように勧めることが重要です。

【参考資料】  
・『新訂 学校保健』 編著/門田 新一郎、大津 一義 発行/大学教育出版  
・『いざというとき必ず役立つ小児診療のコツ 改訂版』 編集/細谷 亮太 発行/羊土社  
・『イラストでわかる子どもの病気ナビゲーター』 編集/五十嵐 隆 発行/メディカルレビュー社

【参考HP】  
・文部科学省 HP (<http://www.mext.go.jp>)  
・公益社団法人 東京都医師会 HP (<https://www.tokyo.med.or.jp/>)